

流通BMS[®]による決済情報と
商流情報の連携の検討について

【 2014 共同実証 II 】
実証内容

2015年 3月

研究開発部

■流通システム標準活用 【決済情報と商流情報の連携】

●金融EDIを活用した効率化の検証

- ✖ 決済情報と商流情報の連携(拡張されたEDI情報欄を使用して)が実現した場合の流通業界における売掛金の消込業務や、販売管理・リベートの入金管理業務の効率化を検証するために、2014年11月、流通業界と一部金融機関において共同実証を実施した。ASP(Application Service Provider)を活用した方式の必要性、使用したXMLフォーマット(EDI情報欄の内容も含む)が、実証開始前に想定したとおりに機能し、運用パターンにより効率化が実現できる事が検証された。
- ✖ 11月の共同実証結果が、流通業界と商流EDIで接続されていない他業種の企業においても、金融EDIが機能し業務効率化を実現する事が可能であるか検証するため、2回目の共同実証をおこなうこととなった。

2014年度 共同実証概要

□共同実証の目的

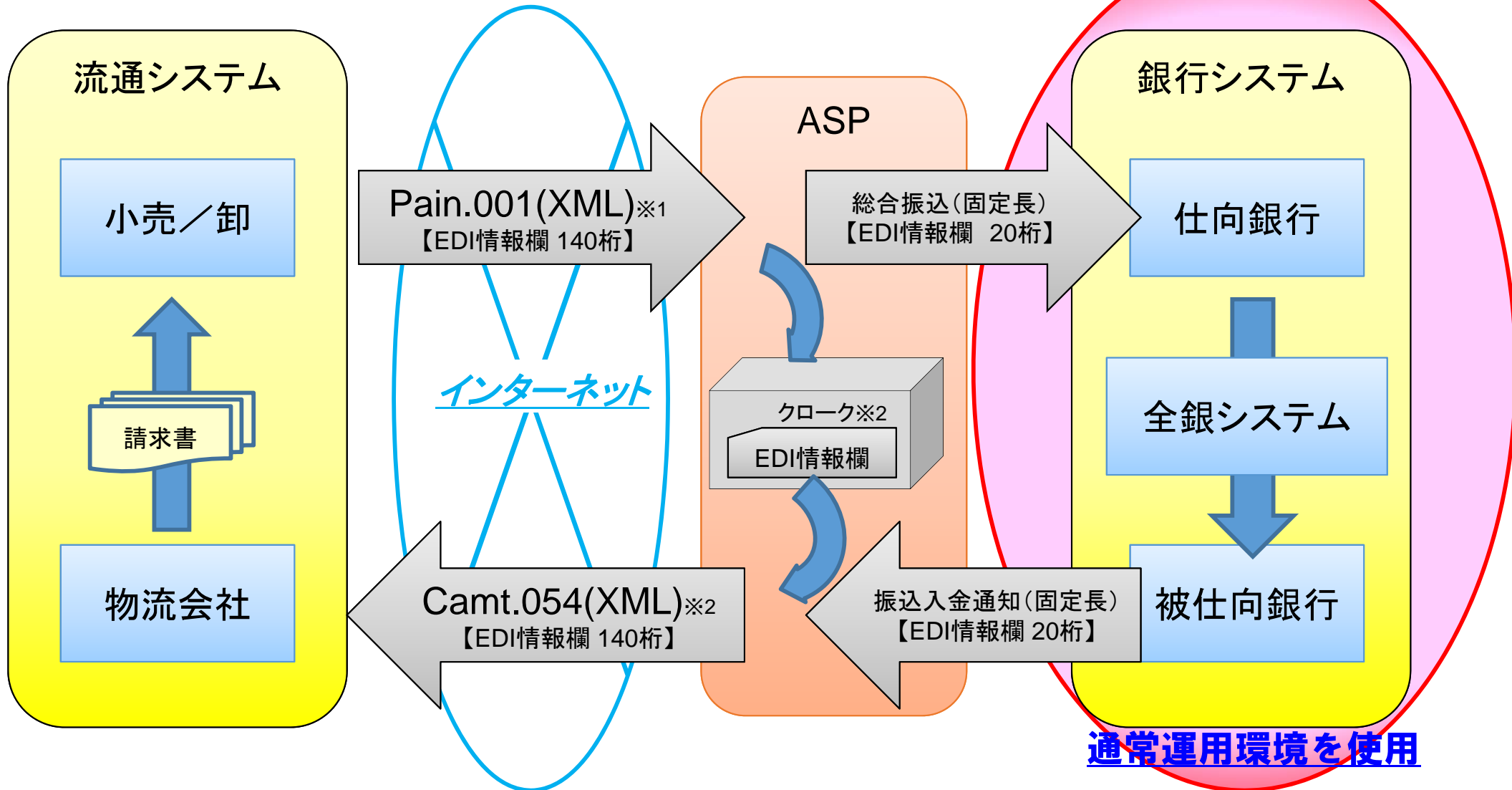
- 流通業界以外の業界における決済（入金処理）業務の効率化の検証
銀行を経由する金流情報への添付拡張を実現することにより、企業の消込等業務効率化の検証を行うこととする。
- 経費消込業務（取引先側から見た場合は売掛消込業務）において、総合振込(Pain)と入金通知(Camt)のEDI情報欄を活用することによる効率化の検証
 - ✓ EDI情報欄を使用して、より確率の高い自動突合を行う上ために、現状では不足している“いつ、誰から、何の為の金”であるかという情報を交換する。
- インターネットを利用する際のセキュリティ要件の整理
 - 証明書や署名、暗号化等によるセキュリティなど、実運用に向けた課題・問題の抽出

□実証スケジュール

- 2015年 2月に実施。
- 物流事業者 1社、小売／卸 2社

共同実証ソリューションイメージ (2014.11の共同実証環境を利用)

共同実証のソリューションイメージ(ISO20022対応の新FB)



※1: 「pain. 001(総合振込)」及び「camt. 054(振込入金通知)」は国際標準(ISO20022)のXMLフォーマット

※2: XMLメッセージの140桁を預り、20桁以内の引換コードを渡す

金融EDIにおける“EDI情報欄”活用による効率化の実証

2015年 2月の実証内容は以下の業務を実施

- [実証内容Ⅲ]経費支払業務（物流会社の売掛金入金管理業務）

上記につき現状の業務フロー、実証による業務フローなどを整理

実証内容Ⅲ 売掛金入金管理(流通業の経費支払)[概要]

物流会社

- 請求書番号、支払先名称、支払先コード、支出内容、支払金額、担当部署で効率化・高度化が可能？

お支払通知書 作成日 2014/07/22 1頁

振込日 2014/07/15

A社 お振込後に自動 F A X にて振込内容を通知することで個別問合せ等へ対応

請求NO	取引日	税込金額	担当部門 担当者	備考
1217002236	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055878308
1217002237	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門4・5F) 55817686
1217008068	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055454109
1217008068	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055454109
1217008069	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門4・5F)

B社、D B よりツールにて作成し、連絡

支払先コード	支払先名称	会社名	申請部署	申請部署名	請求書番号	入力金額
KA00003119	(株)名古屋主管	株式会社	0001000	大高	48012	1
KA00003119	(株)名古屋主管	株式会社	0001000	大高	48013	1
負担部署	経費負担部署名称	支出内容	支払金額	伝票番号		
0000001000	大高	ギフト	1	VJBG201405820201		
0000001000	大高	事務所	1	VJBG201405820219		

実証内容Ⅲ 売掛金入金管理(流通業の経費支払)[概要]

■現状の作業量(目安:大手物流会社)

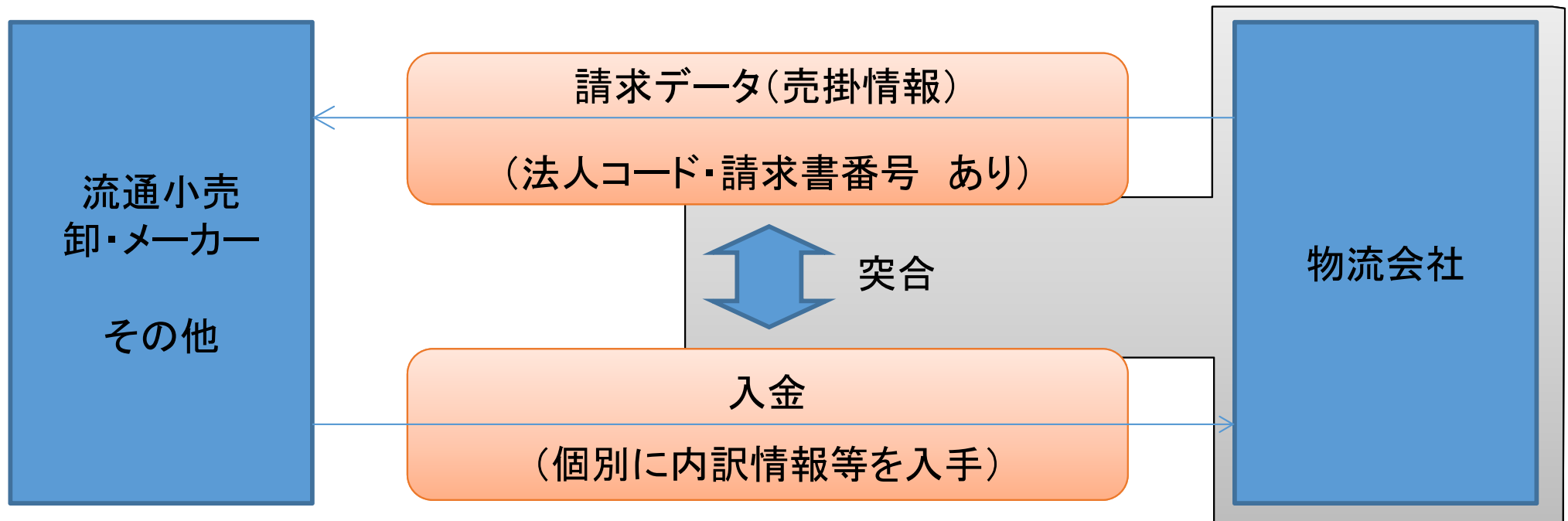
物流会社

約4000件の入金を月1回処理している(自動消込対象外のみ:全体の約8%)

■現状の作業概要

請求データの法人コード・請求書番号毎に、実際の入金金額を突合するため、入金金額の内訳情報を取引企業毎に入手し、売掛管理情報と手作業にて照合作業を実施。

1対1で突合出来ない場合は、電話等での内容確認作業を実施している。



実証内容Ⅲ 売掛金入金管理(流通業の経費支払)[概要]

物流会社

■現在の課題

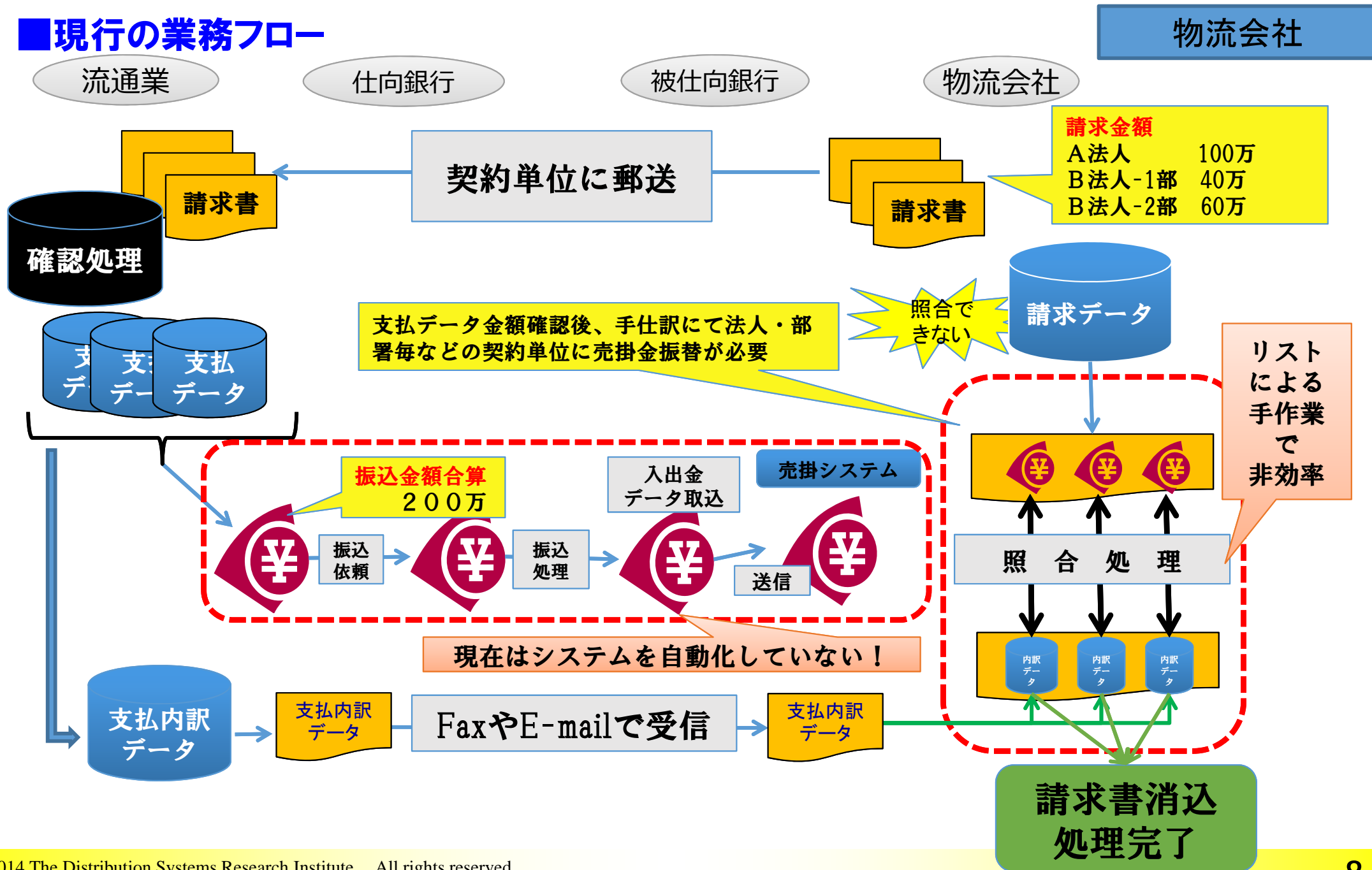
- 通常、物流会社から送付された請求書の内容を該当部署で確認し、経理部門に対し支払処理申請を行なう。経理部門では、会社全体の支払申請を一括して振込むため、振込金額の内訳情報を別途、物流会社へ送信。
- 物流会社では法人契約毎に照合処理が必要なため、手作業にて売掛金振替を仕訳する作業が発生している。また、物流会社側の管理（法人・部署などの契約単位）上、顧客側の送金単位と異なる場合もあり、同様の手仕訳が発生している。

■実証による効率化の手法

- 「請求書番号」等により売掛金を自動特定入金通知のEDI情報欄に「請求書番号」、「支払金額」、「担当部署」の情報を入れることで、自動で入金消込を行う。

実証内容Ⅲ 売掛金入金管理[運用業者の現行業務フロー]

■現行の業務フロー



実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(1/8)

□ 効果測定項目

- ① 自動消し込み (請求書番号+支払金額の一致) 率
- ② 消込補助有り (同一請求書番号を加算処理) 率
- ③ 消込補助有り (支払金額一致+担当部署等の一致) 率
- ④ 自動消込不能 (項目の一致なし) 率

□ 効果が期待できる業務(処理)

A) 入金消込業務

- 入金と請求との突合
- 入金額の確認と消込額の確定
- 入金消込

B) 入金処理業務

- 振込入金通知情報の取得
- 入金情報の売掛金管理システムへの登録
- 入金時の仕訳作成

実証【売掛入金管理(経費支払)の効率化】結果(2/8)

□ 実証実施日

2015年 2月 3日

□ 実証対象データ内容

流通小売様からの11月末締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳(11月末締めに対する振込データ)

振込日	振込件数	明細数
2014/12/22	1 件	523件
総計	1件	523 件

実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(3/8)

□ 効果測定項目の測定結果

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| ① 自動消し込み（請求書番号+支払金額の一致） 率 | |
| 523件中 362件 | 69.2% |
| ② 消込補助有り（同一請求書番号を加算処理） 率 | |
| 523件中 105件 | 20.1% |
| ③ 消込補助有り（支払金額一致+担当部署等の一致） 率 | |
| 523件中 29件 | 5.5% |
| ④ 消込補助無し（項目の一致なし） 率 | |
| 523件中 27件 | 5.2% |

□ システム化する事で処理可能な範囲

- ・①と②に関しては、システム化により自動化可能
- ・③に関しては、担当部署等の情報項目の管理レベル（相対の企業で同一名称を使うなど）の同期をとる必要があり、自動化は困難と判断

実証【売掛入金管理(経費支払)の効率化】結果(4/8)

□ 実証実施日

2015年 2月 3日

□ 実証対象データ内容

流通卸様からの12月末締めに対する振込データ

□ 実証データ内訳(12月末締めに対する振込データ)

振込日	振込件数	明細数
2015/01/15	1 件	274件
総計	1件	274 件

実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(5/8)

□ 効果測定項目の測定結果

- | | | |
|-----------------------------|--|--------------|
| ① 自動消し込み（請求書番号+支払金額の一致） 率 | | |
| 274件中 109件 | | 39.8% |
| ② 消込補助有り（同一請求書番号を加算処理） 率 | | |
| 274件中 160件 | | 58.4% |
| ③ 消込補助有り（支払金額一致+担当部署等の一致） 率 | | |
| 274件中 5件 | | 1.8% |
| ④ 消込補助無し（項目の一致なし） 率 | | |
| 274件中 0件 | | 0.0% |

□ システム化する事で自動処理可能な範囲

- ・①と②に関しては、システム化により自動化可能
- ・③に関しては、担当部署等の情報項目の管理レベル（相対の企業で同一名称を使うなど）の同期をとる必要があり、自動化は困難と判断

実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(6/8)

□ 実証結果からの考察

- 現状、金融機関から得られる「金額」や「振込依頼人名」などの情報だけでは自動消込が不可能であったが入金分に関しても、今回の共同実証で定義した「EDI情報欄」の内容が付加されることにより、90%以上のデータについて自動化処理可能となることを確認した。
 - 今回参加のA社の入金消込に、約7.5時間/月(2014年12月の実績)を要している。仮に自動処理化が実現出来れば、この大半を削減可能である。
- 今回の実証対象企業は、「請求書番号」などの情報が比較的正確に管理されている企業であり、現時点で他の企業においては「支払金額」のみの情報提供しかない企業もある。自動化処理を可能とするためには、請求書番号や金額と言った情報を正確に管理し情報交換できることが前提となる事は留意が必要である。

実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(7/8)

□ 実証内容を含めた今後の課題

- 自社データと相手方データを関連付けできる項目（今回の場合は、請求書番号など）が必須であり、付加する詳細情報（EDI情報欄）について、業界としての標準化及び運用規定などが定める事が必要と思われる。
- 現在、運送会社と支払企業との間では、請求書情報のEDI化はおこなわれておらず紙ベースである。支払企業では請求書情報等をシステムへ入力する作業を余儀なくされており、効率化や精度向上のネックとなっている。
 - 双方の業務効率化の観点から、請求書情報のEDI化など、紙から電子的な情報交換の促進が望まれる。

実証【売掛金入金管理(経費支払)の効率化】結果(8/8)

□ 今後期待される効果 他

- 今回の共同実証は、流通業界だけとの実証であったが、他業界も同様な処理を行っており、業種を関係なく利用可能である。金融情報システムとの連携するという今まででは考えられない事が実運用として実施出来れば、効率化・高度化に繋がる活用場面が考えられる。

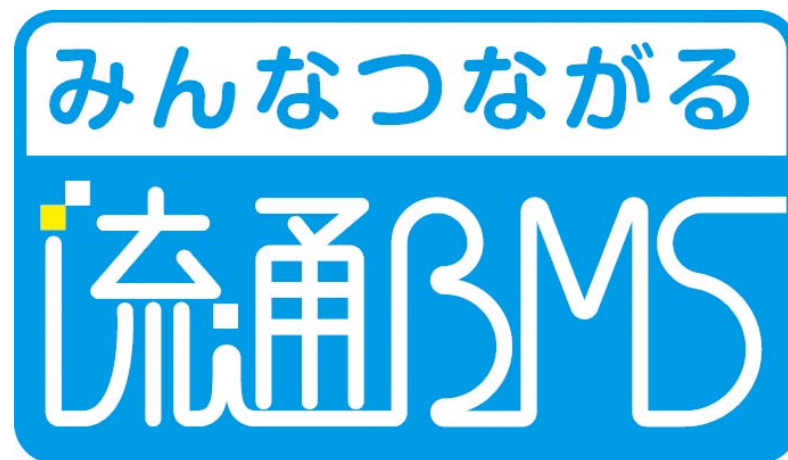
□ 流通企業側が考えるメリットや課題

- 関連付け項目（請求書番号）情報を正確に管理する仕組みの構築。
- 電話等の問い合わせ対応の削減（人的な作業を削減し、正確な情報交換を行う事で激減すると想定される）
- 物流企業とのEDI化による精度の向上。
 - 各段階（利用時、精算時、など）での情報を電子的に交換し管理が出来ていれば、イレギュラー対応も比較的容易に解決する事が期待できる。

<参考> 実証にて使用する「EDI情報欄」の項目

□「売掛金入金管理(流通の経費支払)業務」の効率化

データ項目	桁数	使用桁数
データ区分	1	1
請求書番号	10	10(左詰め)
支払金額	11	11(前ゼロ含む)
取引日	8	YYYYMMDD
担当部署(全角)	20	20(全角10文字)
担当者(全角)	20	20(全角10文字)
支払内容	36	36(全角18文字)



<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>